MetaMoJi 活用授業　学習指導案（英語演習）

1　日　　時　　　令和２年１２月１１日（金）第６限（１４：２０～１５：１０）
2　指　導　者　　　安藤 万莉英
3　指導クラス　　　３年３組
4　場　　所　　　３年３組教室
5　学　級　観
　明るく活発なクラス。演習が続く毎日でも、コミュニケーションを大切にしている。
6　科目／単元名　　　コミュニケーション英語Ⅲ／共通テストリスニング演習
7　使用教材　　　共通テストリスニング実践 30min.（エミル出版）
8　単元の目標
　共通テストに向けたリスニング演習を通して、リスニング力を高める。
9　本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び 指導上の留意点
5 分	タブレット準備	タブレットを取り出し、 MetaMoJi を立ち上げる。	
30 分	共通テスト リスニング演習	ＣＤ（リスニング演習）を聞き、解答（マーク）する。	
5 分	答え合わせ	解答の答え合わせをする。	適宜、机間指導を行う。
15 分	**★MetaMoJi の活用場面** ・第５問の聞き直し	**★MetaMoJi を活用** ・比較的間違いの多い、第５問をもう一度聞き直し、ペアで解法（攻略方法）を考える。 ・MetaMoJi 機能を使って、活動が終了したら「○」を、疑問点があれば「？」を押す。	・適宜、机間指導を行うとともに、モニターで生徒の活動状況を把握する。 ・生徒の進捗状況に合わせて、必要な支援を行う。
5 分	全体での共有	指名されたペアは、前に出て、考えた解法（攻略方法）を発表する。	コメントを加えながら、生徒の発表の補助をする。

★MetaMoJi の活用について

【MetaMoJi の活用場面】
・MetaMoJi 上で、ペアで第５問の解法（攻略方法）を考える。
　その際、 ノートに書き込みながら共有する。
　例（実際に出たもの）：
　①指し示しながら「ここを先に読む」などの情報の共有
　②選択肢に書き込みながら「このような情報には注目する」
　③表に書き込みながら「この数字を先に読む」

【MetaMoJi 活用の意図】

・リスニング演習で、教師の解説のみで終わるところを、MetaMoJi を活用することで、以下の利点を含め、生徒が考えを共有しながらポイントを共有し、より深い理解や技能の習得につながるのではないかと考えた。

＜利点＞

(1) MetaMoJi であれば、書き込んだことの修正が何度でもできる。

(2) 新型コロナ感染症予防のため、生徒同士が近寄ってグループ学習を行うことができないが、MetaMoJi を活用すれば、移動せず自席のタブレットの画面上で簡単に意見交換ができる。

(3) 今回の授業では実践できなかったが、音声の収録も簡単にできるので、音読の確認等もできる。

【MetaMoJi 活用の成果】

・記入した意見の修正ができること、また他の生徒に指し示すことができることで、生徒自身が教える場面を充実できた点や全体での共有の場面で有効であった。

【今後の課題】

・基本的なことではあるが、アナログな活動との兼ね合いで、机の上の整頓が必要になる。タブレットの扱いは英語だけでなく、情報の授業やホームルーム活動など様々な場面での徹底が必要である。

・タブレットの出し入れ、立ち上げに想定していたよりも多くの時間がかかるので、授業の前後 5〜10 分程度は余裕をもつ必要がある。生徒が待つ時間が出てくるので、その時間を他のアナログな活動にできるとよい。

・MetaMoJi を使う場面を精選することで、メリハリのある授業にできる。実際にコミュニケーションをとる場、発表する場は活動的に、また自分自身で考えたり、その考えをまとめたりする作業をする時間、またその考えを周りの生徒と共有する時間など静的な時間に MetaMoJi を有効に活用するとよい。例えば、リスニングの振り返り活動であれば、重要な部分の音読の録音、発音の確認ができる。読解のまとめの活動であれば、show & tell などの素材を準備し、自分で会話を書き込んだり、英作文も書き込んだりすることができる。教員側は英作文をリアルタイムに確認することができるので、common errors などを今までよりも素早く見つけることができ、生徒全体で共有し、還元することができる。いずれの場合においても、推敲する段階では紙に書かせ、発表段階かその直前段階のものを書き込ませると活動が円滑に進むと思われる。

・MetaMoJi 機能での「個別学習ページ」、「一斉学習ページ」、「グループ学習ページ」などの切り替えが容易な反面、切り替えを忘れてしまいタイムロスが生まれることがある。校内研修などでも使用する場面があると思うが、ノートを立ち上げる時間や切り替える時間のほか機器トラブルにも対処する必要があるので、余裕をもった授業案作りを心掛ける必要がある。電源が切れていたなど思わぬことも多く発生することも念頭に置いて、授業者も実際に使用しながら慣れていく必要がある。

・今回の授業実践では、授業でのタブレット使用にもあまり習熟していない段階で MetaMoJi 導入したので、機器の操作にとらわれて生徒の活動を見守ることに限界があった。

・デジタルホワイトボードとして発表の準備が円滑に進む一方、生徒も教員もその機器操作に時間がとられてしまい、本来の目的（共通テスト英語リスニングに着目し、そのコツを考え共有すること）が十分に達成できたとは言えなかった。生徒も教員も慣れることが必要である。